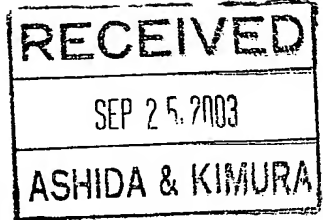


特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際予備審査機関）



出願人代理人

木村 満

殿

あて名

〒 101-0054

東京都千代田区神田錦町2丁目7番地 協販
ビル2階 芦田・木村国際特許事務所

PCT見解書

(法第13条)
〔PCT規則66〕

発送日
(日.月.年)

24.09.03

出願人又は代理人
の書類記号

02F064-PCT

応答期間

上記発送日から 2 月以内

国際出願番号

PCT/JPO3/02651

国際出願日

(日.月.年) 06.03.03

優先日

(日.月.年) 06.03.02

国際特許分類 (IPC)

Int. Cl. G01R19/165

出願人 (氏名又は名称)

サンケン電気株式会社

- これは、この国際予備審査機関が作成した 1 回目の見解書である。
- この見解書は、次の内容を含む。
 - ☒ 見解の基礎
 - ☐ 優先権
 - ☒ 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
 - ☐ 発明の単一性の欠如
 - ☐ 法第13条 (PCT規則66.2(a)(ii)) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
 - ☐ ある種の引用文献
 - ☐ 国際出願の不備
 - ☐ 国際出願に対する意見
- 出願人は、この見解書に応答することが求められる。
 いつ? 上記応答期間を参照すること。この応答期間に間に合わないときは、出願人は、法第13条 (PCT規則66.2(d)) に規定するとおり、その期間の経過前に国際予備審査機関に期間延長を請求することができる。ただし、期間延長が認められるのは合理的な理由があり、かつスケジュールに余裕がある場合に限りらることに注意されたい。
 どのように? 法第13条 (PCT規則66.3) の規定に従い、答弁書及び必要な場合には、補正書を提出する。補正書の様式及び言語については、法施行規則第62条 (PCT規則66.8及び66.9) を参照すること。
 なお 補正書を提出する追加の機会については、法施行規則第61条の2 (PCT規則66.4) を参照すること。補正書及び又は答弁書の審査官による考慮については、PCT規則66.4の2を参照すること。審査官との非公式の連絡については、PCT規則66.6を参照すること。
 応答がないときは、国際予備審査報告は、この見解書に基づき作成される。
- 国際予備審査報告作成の最終期限は、PCT規則69.2の規定により 06.07.04 である。

名称及びあて先

日本国特許庁 (IPEA/JP)

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

篠崎 正

2S

9106

電話番号 03-3581-1101 内線 3258

I. 見解の基礎

1. この見解書は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に回答するために提出された差替え用紙は、この見解書において「出願時」とする。)

☒ 出願時の国際出願書類

- ☐ 明細書 第 _____ ページ、 出願時に提出されたもの
 明細書 第 _____ ページ、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
 明細書 第 _____ ページ、 _____ 付の書簡と共に提出されたもの
- ☐ 請求の範囲 第 _____ 項、 出願時に提出されたもの
 請求の範囲 第 _____ 項、 PCT19条の規定に基づき補正されたもの
 請求の範囲 第 _____ 項、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
 請求の範囲 第 _____ 項、 _____ 付の書簡と共に提出されたもの
- ☐ 図面 第 _____ ページ/図、 出願時に提出されたもの
 図面 第 _____ ページ/図、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
 図面 第 _____ ページ/図、 _____ 付の書簡と共に提出されたもの
- ☐ 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、 出願時に提出されたもの
 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、 _____ 付の書簡と共に提出されたもの

2. 上記の出願書類の言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願の言語である。

上記の書類は、下記の言語である _____ 語である。

- ☐ 国際調査のために提出されたPCT規則23.1(b)にいう翻訳文の言語
☐ PCT規則48.3(b)にいう国際公開の言語
☐ 国際予備審査のために提出されたPCT規則55.2または55.3にいう翻訳文の言語

3. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき見解書を作成した。

- ☐ この国際出願に含まれる書面による配列表
☐ この国際出願と共に提出された磁気ディスクによる配列表
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された書面による配列表
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された磁気ディスクによる配列表
☐ 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった
☐ 書面による配列表に記載した配列と磁気ディスクによる配列表に記載した配列が同一である旨の陳述書の提出があった。

4. 補正により、下記の書類が削除された。

- ☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 図面の第 _____ ページ/図

5. ☐ この見解書は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を越えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

Ⅲ. 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成

1. 次に関して、当該請求の範囲に記載されている発明の新規性、進歩性又は産業上の利用可能性につき、次の理由により審査しない。

☐ 国際出願全体

☒ 請求の範囲 1-9

理由:

☐ この国際出願又は請求の範囲 _____ は、国際予備審査をすることを要しない次の事項を内容としている（具体的に記載すること）。

☒ 明細書、請求の範囲若しくは図面（次に示す部分）又は請求の範囲 1-9 の記載が、不明確であるため、見解を示すことができない（具体的に記載すること）。

請求の範囲 1-9 の記載と明細書又は図面における記載とが食い違っており、その結果として、請求の範囲 1-9 の記載が不明瞭となっている。例えば;

a) 「前記第 1 の判別部の第 1 の判別結果と前記第 2 の判別部の第 2 の判別結果とを記憶する記憶部」（請求の範囲 1）と記載されているが、記憶部に対応する明細書の記載はフリップフロップ 54 である。しかし、フリップフロップ 54 のセットとリセットに第 2 の判別結果と第 1 の判別結果が入力されており、フリップフロップ 54 は、第 2 の判別結果で H にセットされ、第 1 の判別結果に基づいた信号で L にリセットされる。これを、フリップフロップ 54 が第 1、第 2 の判別結果を記憶しているとは表現できない。したがって、「記憶」という文言が意味する事項が不明瞭である。指摘した記載以外の「記憶」という文言についても、同様である。

☐ 全部の請求の範囲又は請求の範囲 _____ が、明細書による十分な裏付けを欠くため、見解を示すことができない。

☐ 請求の範囲 _____ について、国際調査報告が作成されていない。

2. ヌクレオチド又はアミノ酸の配列表が実施細則の附属書 C（塩基配列又はアミノ酸配列を含む明細書等の作成のためのガイドライン）に定める基準を満たしていないので、見解書を作成することができない。

☐ 書面による配列表が提出されていない又は所定の基準を満たしていない。

☐ 磁気ディスクによる配列表が提出されていない又は所定の基準を満たしていない。

補充欄 (いずれかの欄の大きさが足りない場合に使用すること)

第 III 欄の続き

b) 「交流信号の信号レベルが、零よりも大きい第1の基準電圧(V2)を小さい方から大きい方に越えたか否かを判別する第1の判別部(52, 82)」(請求の範囲1)と記載されているが、第1の判別部である比較回路52、82は、単なるコンパレータであって、交流信号の信号レベルが第1の基準電圧を越えたか否かのみを判別し、小さい方から大きい方に越えたか否かまでは判別できない。したがって、「小さい方から大きい方に越えたか否かを判別」という文言が意味する事項が不明瞭である。指摘した記載以外の「小さい方から大きい方に越えたか否かを判別」及びこれに類似した文言についても、同様である。

なお、「前記第1の基準電圧(V2)を大きい方から小さい方に越えたときに参照して」(請求の範囲4)は、フリップフロップ55のクロック端子に入力する信号eが、第1の基準電圧(V2)を大きい方から小さい方に越えたときのみHとなるので、明瞭である(問題無い)(但し、以下の(c)は不明瞭である。)

c) 「第1の判別結果と前記第2の判別結果とを、前記交流信号のレベルが前記第2の基準電圧(V1)を越えたとき・・・参照して」(請求の範囲4)と記載されているが、前記第2の基準電圧(V1)を越えたとき(信号bがHのとき)、フリップフロップ85はフリップフロップ84の出力を取り込んでいない。よって、請求の範囲と明細書の記載に食い違いがある。よって、不明瞭である。

	手	続	補	正	書
特許庁長官					殿
(特許庁審査官)					殿
1 国際出願の表示					
2 出願人 (代表者)					
・氏名 (名称)					
あて名					
国籍					
住所					
3 代理人					
氏名					
あて名					
4 補正命令の日付					
5 補正の対象					
6 補正の内容					
7 添付書類の目録					